

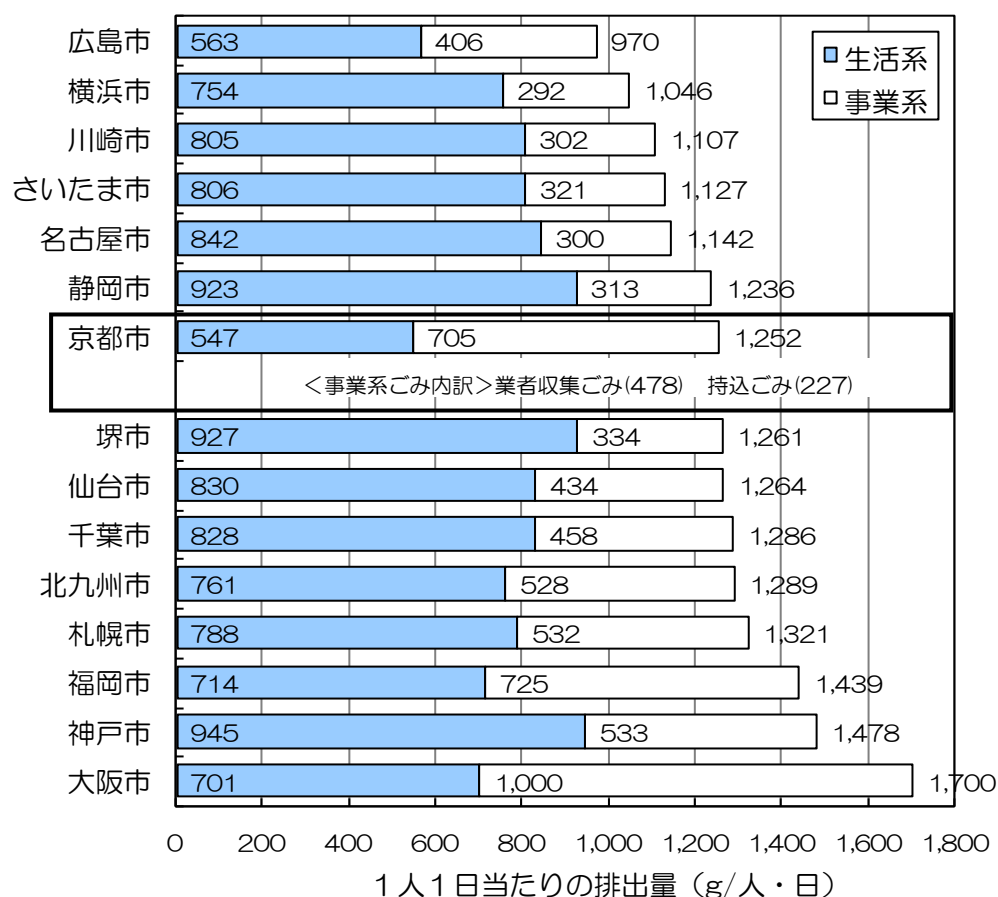
1 ごみ減量に向けた全体の基本的な考え方（その1）

○事業系のごみ排出量は他都市と比べて多く、生産から販売までの各工程で徹底したごみ減量の推進を図る。

○家庭系のごみ排出量は他都市と比べて最も少ないが、現状にとどまらず、更なるごみ減量に向けた2Rを基本とした取組の推進を図る。

1人1日当たりの排出量の政令指定都市比較（平成18年度）

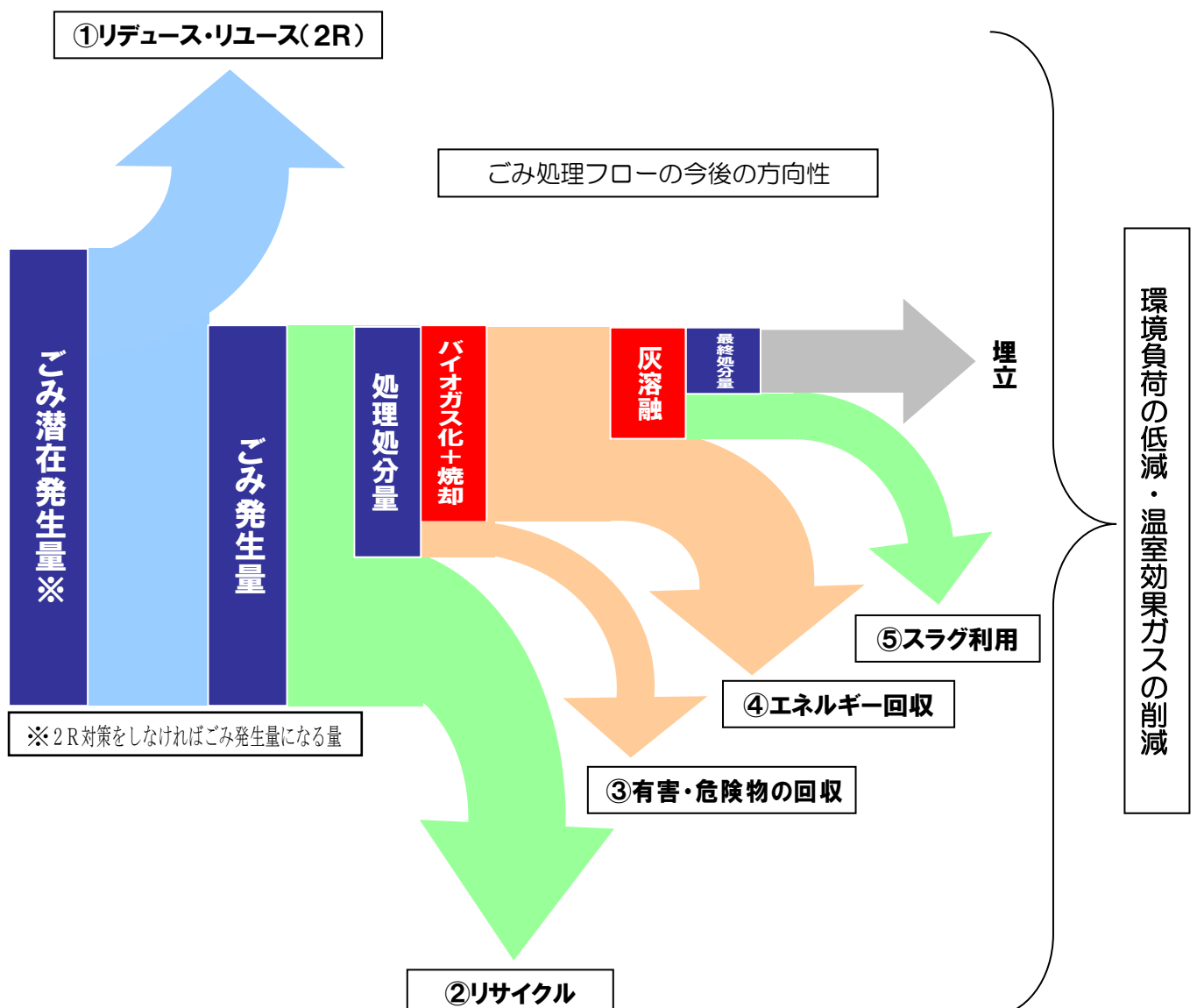
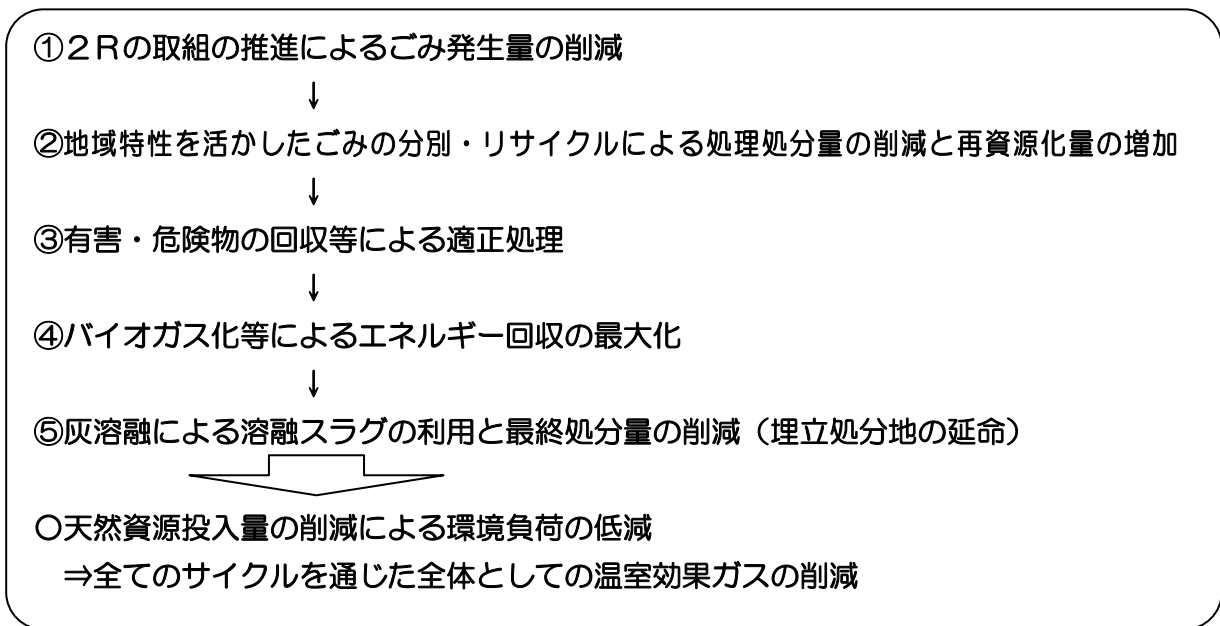
（出典）環境省 一般廃棄物処理事業実態調査



※ 平成19年度 京都市 1人1日当たりの排出量(g/人・日) (家庭ごみ有料指定袋制開始後1年目)
生活(家庭)系: 500 事業系: 682 (業者収集ごみ: 466 持込ごみ: 216) 合計: 1,182

※ 各都市により、対象とするごみの種別や生活系と事業系の線引きによる違い等がある。

2 ごみ減量に向けた全体の基本的な考え方（その2）



3 ごみ減量に向けた全体の基本的な考え方（その3）

(1) 家庭系廃棄物の管理の考え方

○現行の資源ごみの徹底した分別回収率の向上を図る。



○残ったごみ組成から見た更なる分別・再資源化によるごみ減量の仕組みづくり

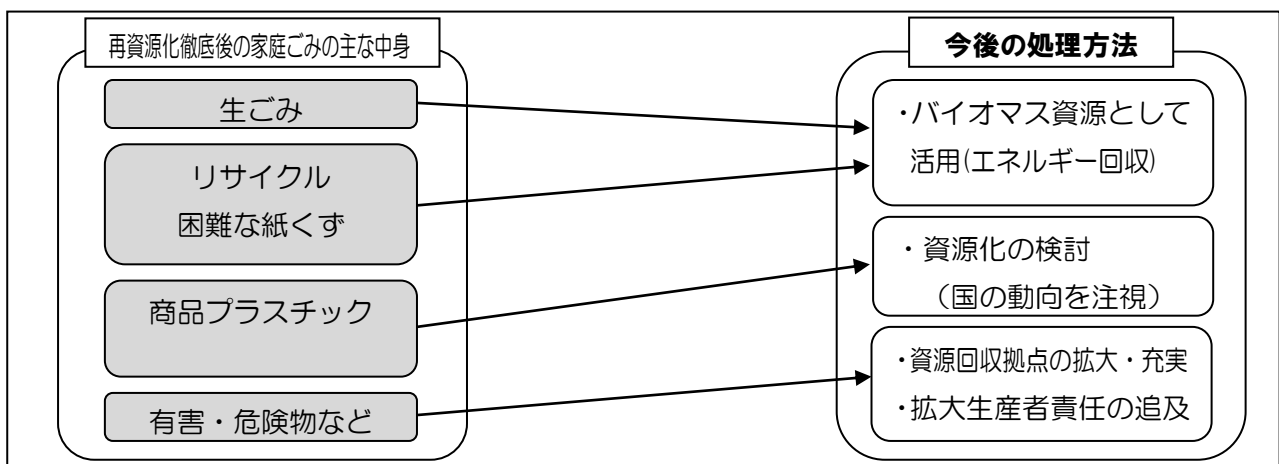
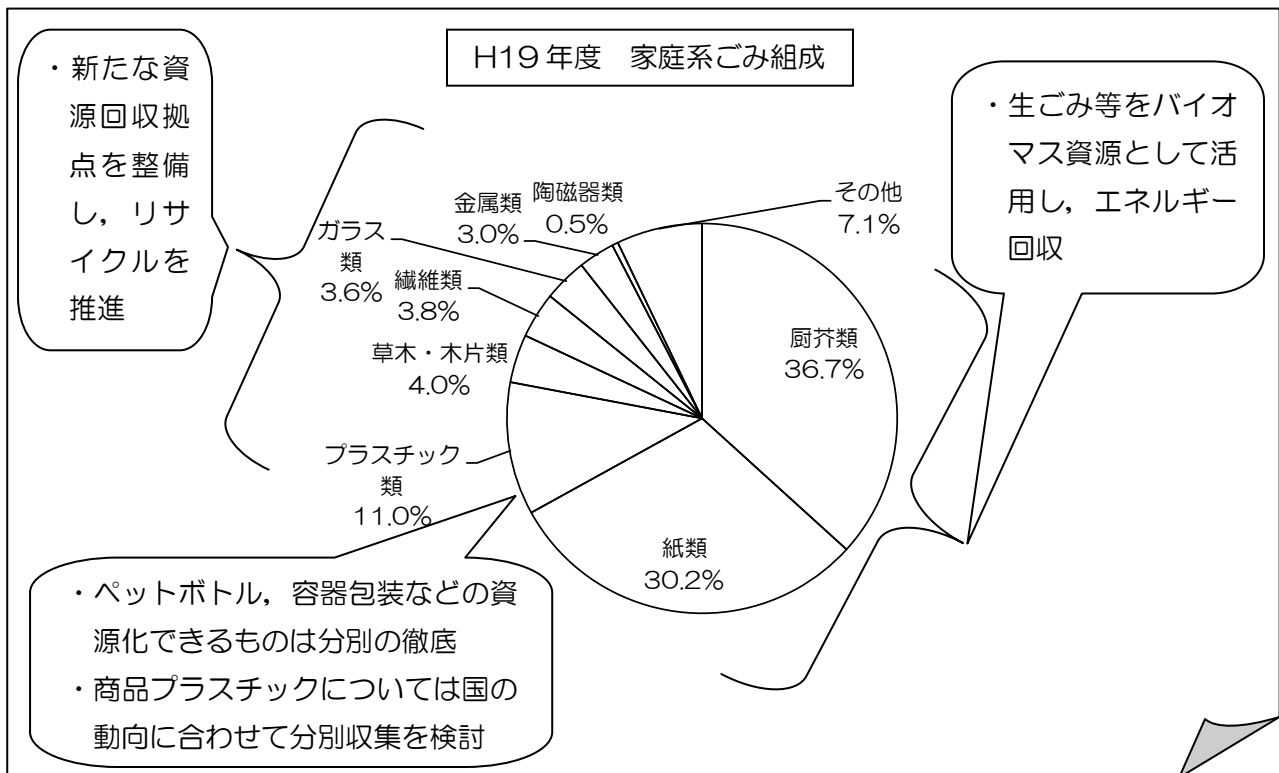
①資源回収拠点の拡大・充実による再資源化できるもの、有害・危険物等の回収



②国の容器包装リサイクル法改正の動向を見据えたプラスチック製品を含む全プラスチック回収の検討



③生ごみ等のバイオガス化によるエネルギー回収

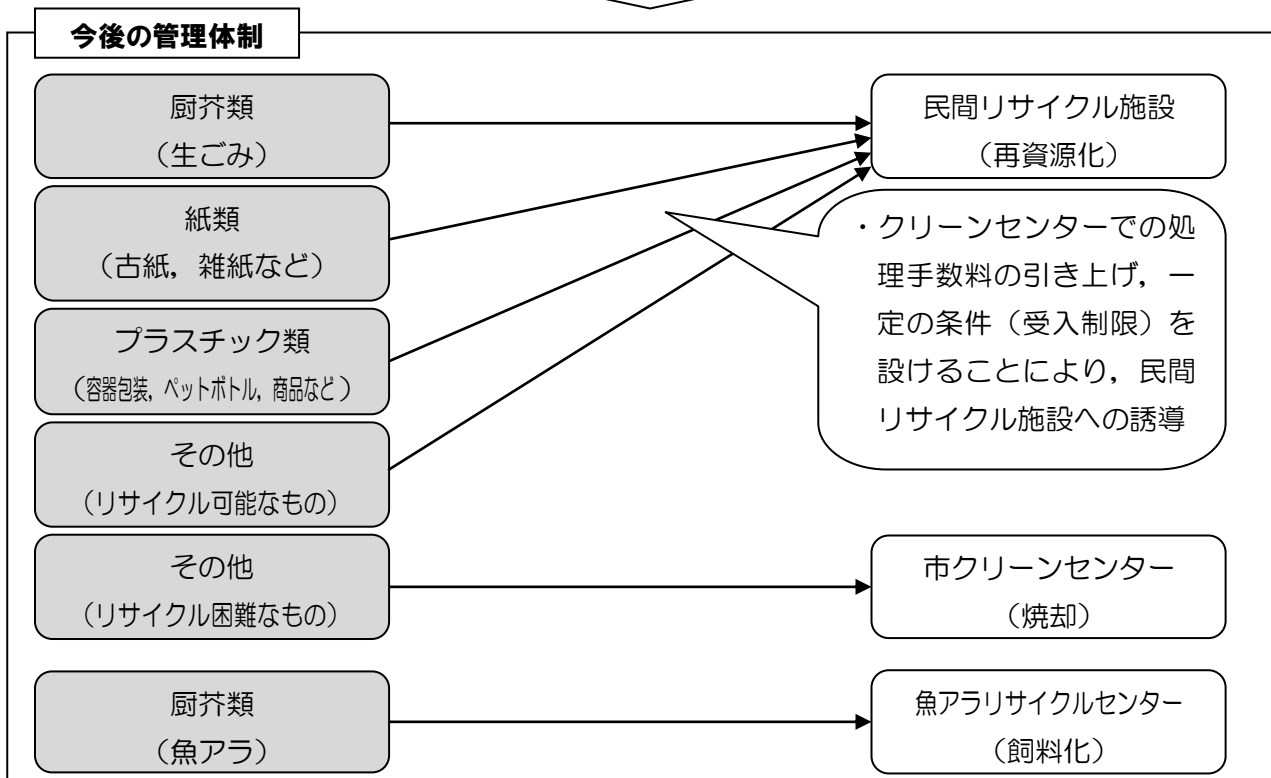
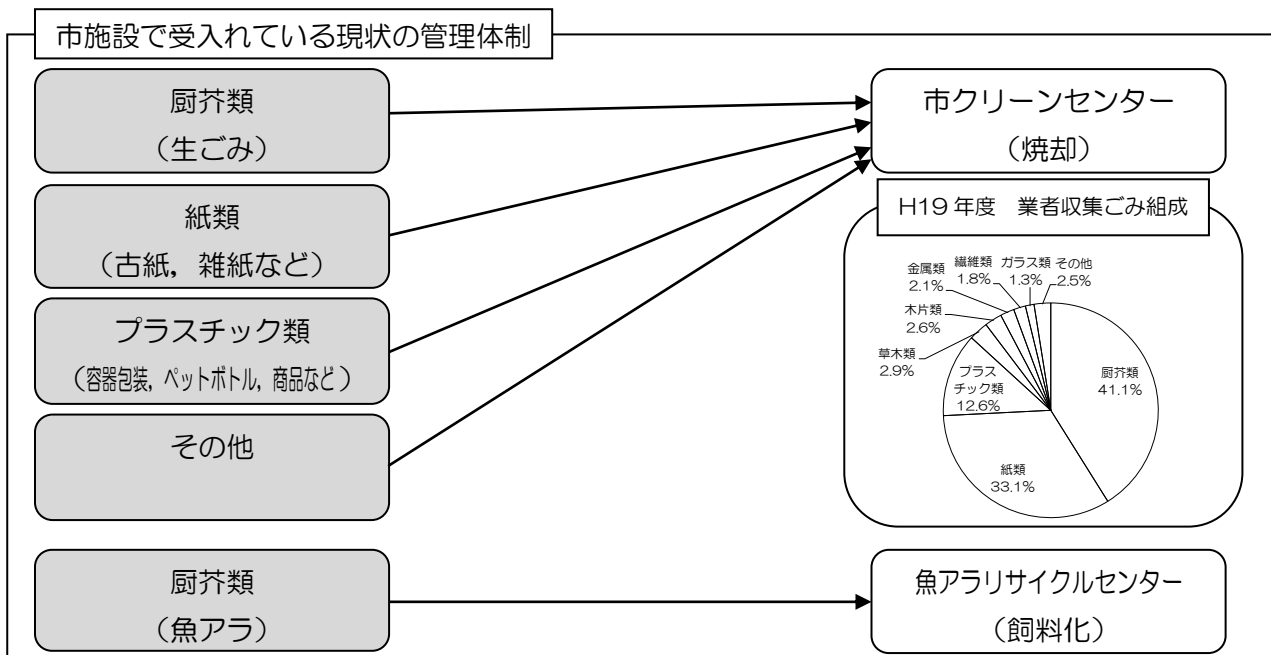


(2) 事業系廃棄物の管理の考え方

ア 業者収集

○一般廃棄物収集運搬許可業者の市クリーンセンターでの処理手数料を段階的に引き上げることにより、厨芥類、紙類、プラスチック類などの再資源化できるものは民間リサイクル施設への誘導を図り、処理処分量及びCO₂排出量の大幅な削減を目指す。

○民間リサイクル施設にて、再資源化が可能なものや処理許容量の少ないものなどについては、市クリーンセンターにて受け入れる際、一定の条件（受入制限）を設けることを検討する。

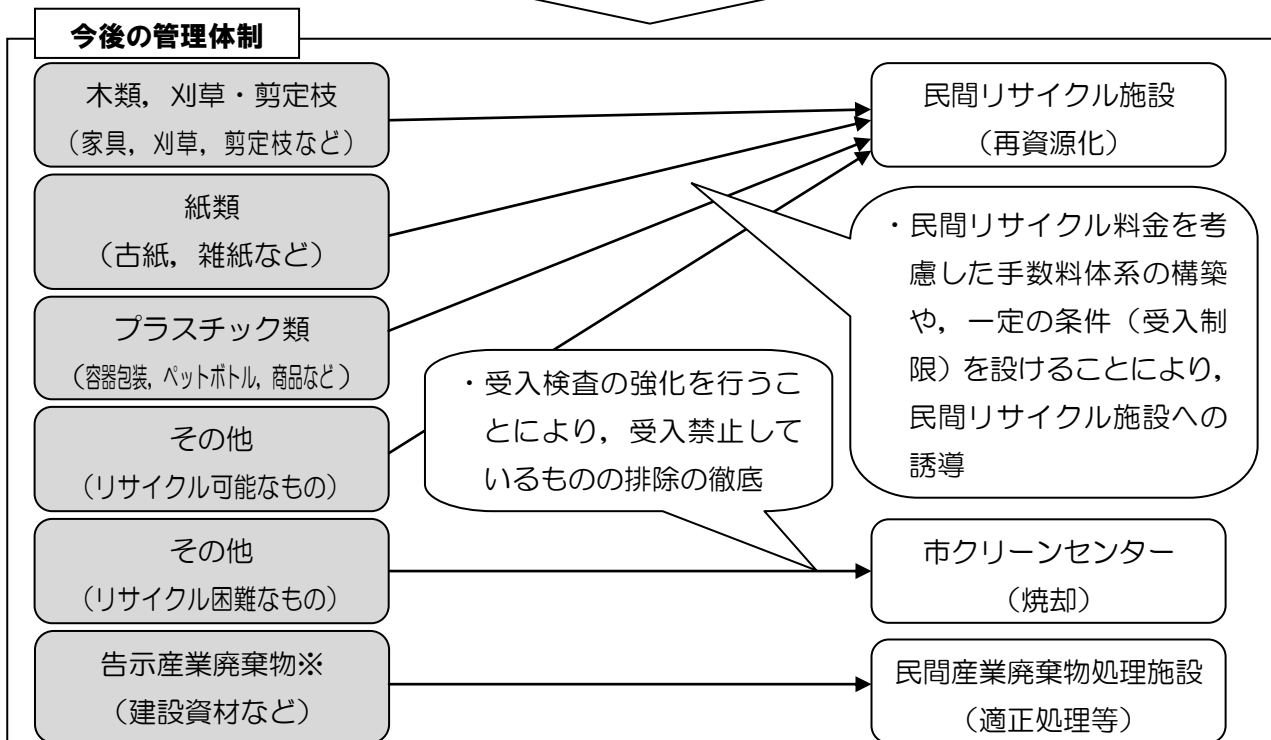
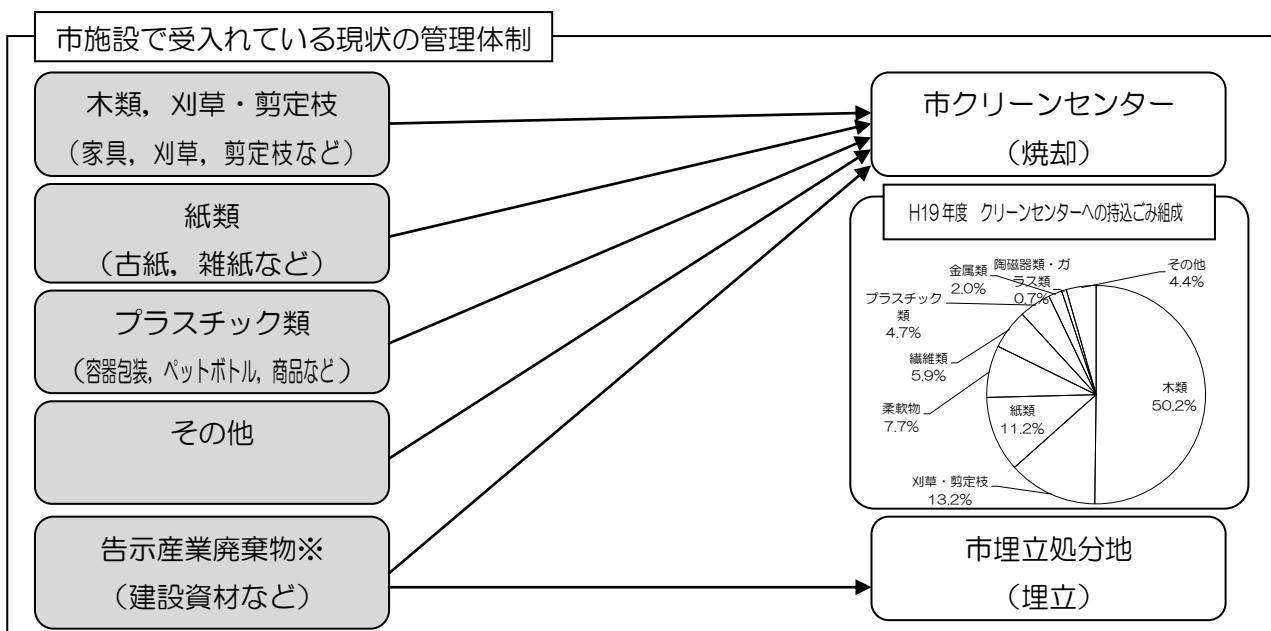


イ 持込ごみ

○民間リサイクル施設へ誘導するインセンティブの働く料金の仕組みを検討することにより、木類、紙類、プラスチック類などの再資源化を図り、処理処分量及びCO₂排出量の大幅な削減を目指す。

○民間リサイクル施設にて、再資源化が可能なものや処理許容量の少ないものなどについては、市クリーンセンターにて受け入れる際、一定の条件（受入制限）を設けることを検討する。

○市クリーンセンターでの持込ごみの受入検査の強化を行うことにより、産業廃棄物などの受入禁止をしているものの排除の徹底を図り、安心・安全な適正処理を確保する。



※平成21年10月1日から告示産業廃棄物の市施設での受入廃止